

## 《馬乗》の建築短歌

今もロシア連邦はウクライナを侵略中ですし、イスラエルでも戦争が行われています。時の縁によって、現在の平和な日本国に産まれたことは〈リア充〉でなくても幸せだと思います。LUCKY!

さて、今回は福知山城跡（京都府福知山市内記5番地）と明智光秀様について思考させて頂きます。

吉川弘文館編集部〈編〉『誰でも読める日本中世史年表』吉川弘文館（2007年・平成十九年）で天正七年・己卯（1579）を参照すると、8月24日「明智光秀、丹波を平定し、町人・百姓らに還住を促す（富永文書）。」と記述されています。ちなみに還住（げんじゅう）は「もとの所へかえり住むこと。（『国史大辞典』黒川直則）」です。福知山城の公式HPでは、この年の築城と説明されています。一方、日本史研究者・小和田哲男〈監〉『日本の城ハンドブック新版』三省堂（2005年・平成十七年）の福知山城の説明を参照すると「福知山はもと〈横山〉といい戦国の頃、小笠原氏の後裔が築城して近隣を支配したが、天正七年、横山信房は明智光秀の攻撃をうけて自害した。」と記述されています。

同じく日本史研究者・高柳光寿・日本歴史学会〈編〉『人物叢書・新装版 明智光秀』（1986年・昭和六十一年）では福知山城に関する目立った説明はありませんでした。やっぱり天正七年・己卯（1579）8月頃に明智軍団の本城になったという認識で良いと思います。

福知山城跡の北側には福知山市動物園（三段池RAVIHOUSE動物園）があり、天空の城・竹田城跡（兵庫県朝来市和田山町竹田古城山169番地）が真西にあります。地形的にどちらからも見えません。Mystery!

明智光秀は年齢不詳です。織田信長と明智光秀の年齢差を+3歳程度と仮定すれば〈本能寺の変〉は決して無謀な反乱ではないと思っています。

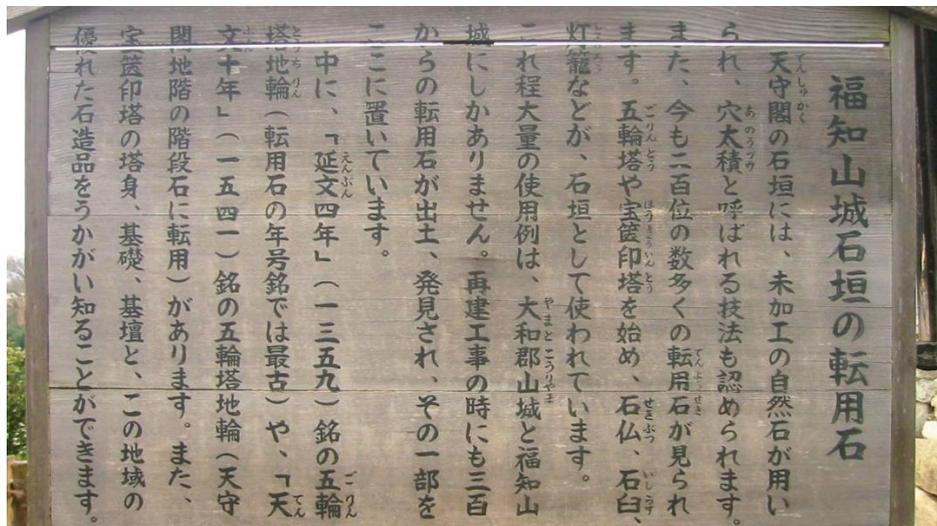
天正七年・己卯（1579）の10年前、永禄十二年・己巳（1569）2月に織田信長が京都において二条城造営に着工しました。つまり、明智光秀と彼の家臣団は織田信長と会ってから10年で戦国大名のような軍事力を獲得した事になります。Unbelievable!

明智光秀と彼の家臣団の偉業については、今後の研究に期待しています。僕は明智光秀が織田信長に仕える以前から、妻木家と彼の家臣が小規模でありながら組織的に活動していたと思っています。

越前国の大名・朝倉義景に仕えていなくても、近畿地方の佛寺に居候していたと仮定すれば、ある程度は安定した生活ができると思います。明智光秀が佛寺で自己研鑽しているうちに、彼の家臣たちが諸国を偵察して状況を報告するという浪人生活を私なりに思考してみました。



〈福知山城跡の天守閣〉



〈福知山城跡の案内版〉

では、冬の日には建築短歌を詠まさせていただきます。

～『雪の華』 分類される 国国も

御城の陰は 風が冷たく ～

大阪工業技術専門学校 工業専門課程 I 部 建築学科 1998年卒業 川島 瑞穂